

踏切無遮断は命に関わる重大な事象！

同種事象を発生させない再発防止策を強く要求！

6月30日、8時25分頃、紀勢線亀山～下庄間阿野田踏切において列車が接近しているにもかかわらず遮断桿が降下せず列車が踏切内に1メートル進入して停車するという事象が発生した件について申し入れしていた申第3号「紀勢線、阿野田踏切故障に関する申し入れ」について東海労名古屋地本は9月21日、業務委員会を開催し会社と議論してきました。

原因は電子連動装置のシステム立ち上げ時の障害

会社は、原因について「亀山駅電子連動装置LD-1型のシステム立ち上げ動作中に制御している踏切警報の出力が取り消されてしまった」ことによる。としています。

原因は違うにしても紀勢線では2004年にも無遮断の踏切を列車が通過する事象が起きています。また、本事象の1ヶ月後には名松線でも踏切の無遮断が発生しています。

原因は何であれ、ひとたび降下していない踏切で事故が発生すれば社会問題にもなってしまいます。踏切の遮断桿が降りない事象は、あってはならないことです。

真のフェールセーフを求める

フェールセーフの原則について組合側からの追究に対し会社は、「踏切は動作しかけていた」と回答していますが、現実には運転士の緊急停止手配により、たまたま被害が無かっただけです。保安装置の故障・異常時は安全側に動作しなければなりません。列車通過時に踏切動作では保安装置としての役割を果たしていません。

一般通行人は踏切があることで踏切が動作していない時には列車は来ないものと思っています。踏切保安装置は絶対の安全が求められます。

たまたまの無事は許されない！ 会社はフェールセーフの理念を貫徹せよ！